

新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響に関する調査結果

1 目的

当センターでは平成13年の開館以来、男女共同参画社会の推進のため、現状を把握し、問題解決の糸口を探るべく「調査研究事業」を実施している。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、長い期間自粛生活を余儀なくされ、県民生活や社会経済等に大きな影響を与えている。そこで、県民の皆さんの生活や就業、困りごとや心身の変化、いわゆる「生理の貧困」等の実態やニーズを把握し、今後のセンター事業に活かしていくため、本調査を実施した。

2 調査期間

令和3年12月1日～12月31日

3 調査対象

福島県在勤・在住の方

4 調査方法

Google フォームを利用した Web アンケート調査を実施するとともに、館内にアンケート用紙を配置し集約した。

当センターホームページ及び Facebook、センター主催事業に参加した企業並びにふくしま女性活躍応援企業、アカデミアコンソーシアムふくしまを通じて、同加盟大学等に周知し、協力を依頼した。

5 回答者数

Google フォームを利用した Web アンケート：708名

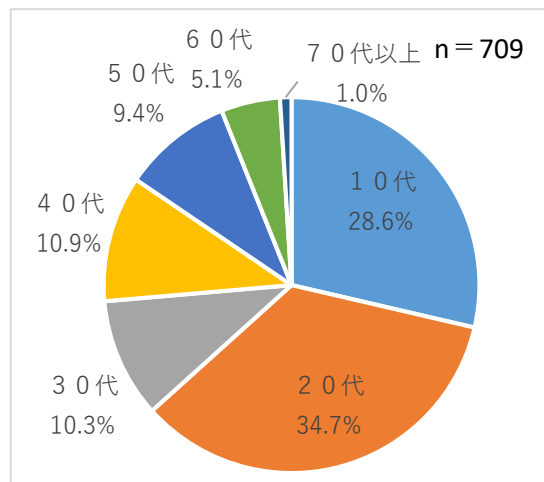
館内に設置した回答用紙によるアンケート：1名

合計：709名

6 基本属性

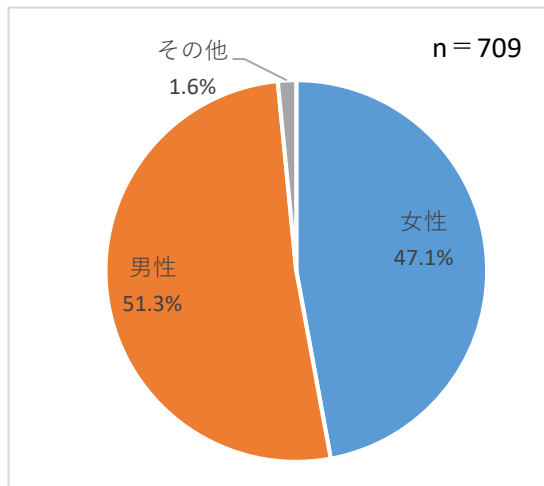
(1) 年代

項目	人数
10代	203
20代	246
30代	73
40代	77
50代	67
60代	36
70代以上	7
合計	709



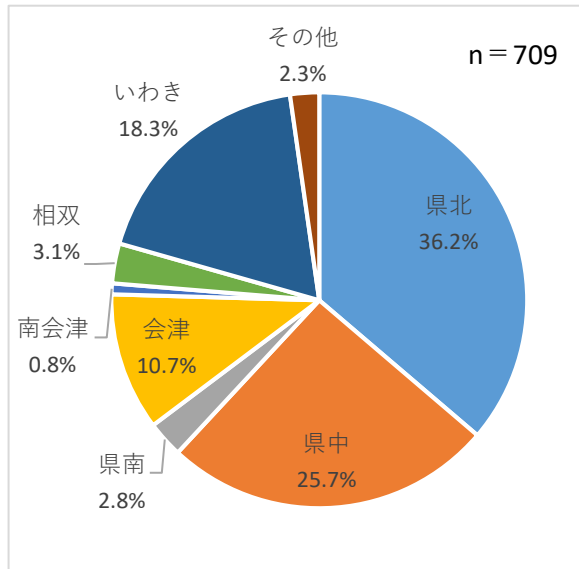
(2) 性自認

項目	人数
女性	334
男性	364
その他	11
合計	709



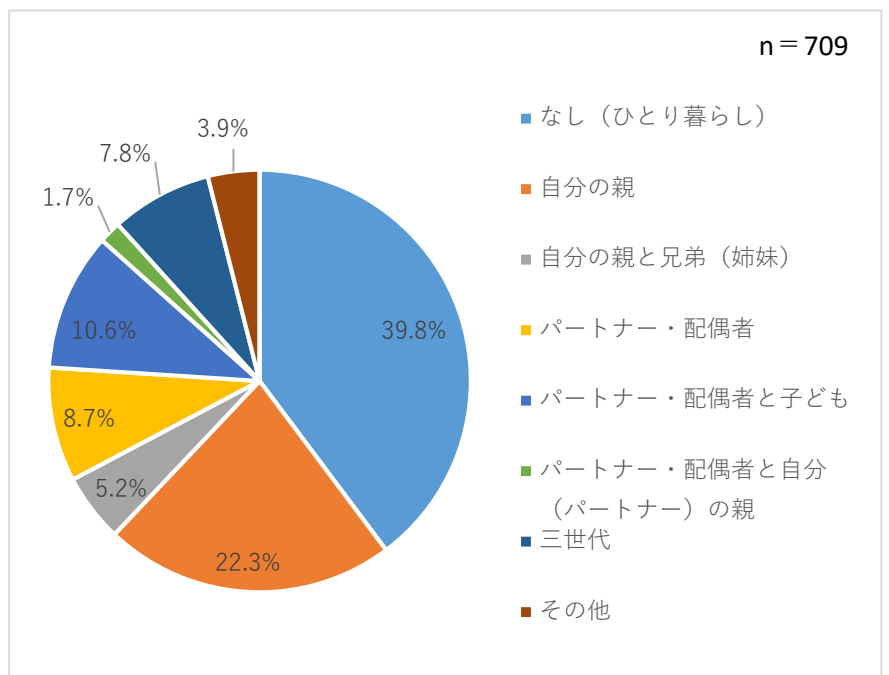
(3) 居住地域

項目	人数
県北	257
県中	182
県南	20
会津	76
南会津	6
相双	22
いわき	130
その他	16
合計	709



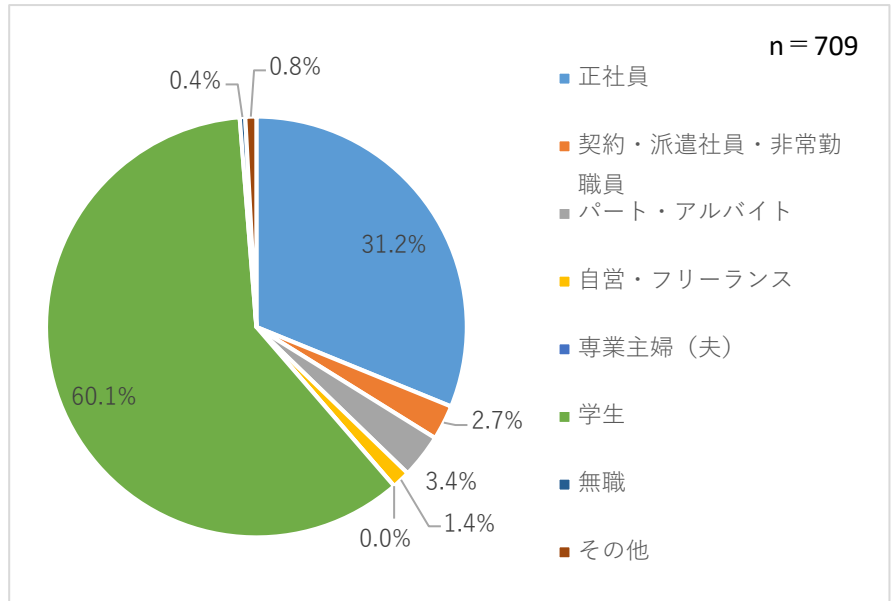
(4) 同居家族

項目	人数
なし（ひとり暮らし）	282
自分の親	158
自分の親と兄弟（姉妹）	37
パートナー・配偶者	62
パートナー・配偶者と子ども	75
パートナー・配偶者と自分（パートナー）の親	12
三世代	55
その他	28
合計	709



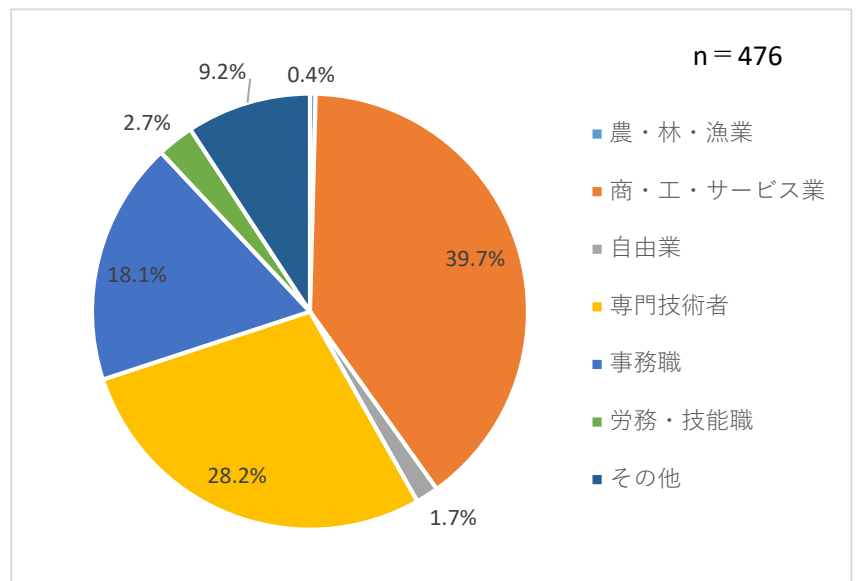
(5) 就業状況

項目	人数
正社員	221
契約・派遣社員・非常勤職員	19
パート・アルバイト	24
自営・フリーランス	10
専業主婦（夫）	0
学生	426
無職	3
その他	6
合計	709



(6) 業種

項目	人数
農・林・漁業	2
商・工・サービス業	189
自由業	8
専門技術者	134
事務職	86
労務・技能職	13
その他	44
合計	476



〈 上記業種の詳細 〉

商・工・サービス業：小売業・飲食店・理髪店など

自由業：開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師範など

専門技術者：勤務医・看護師・研究員・教員・栄養士・保育士・技術者など

事務職：一般事務・司書など

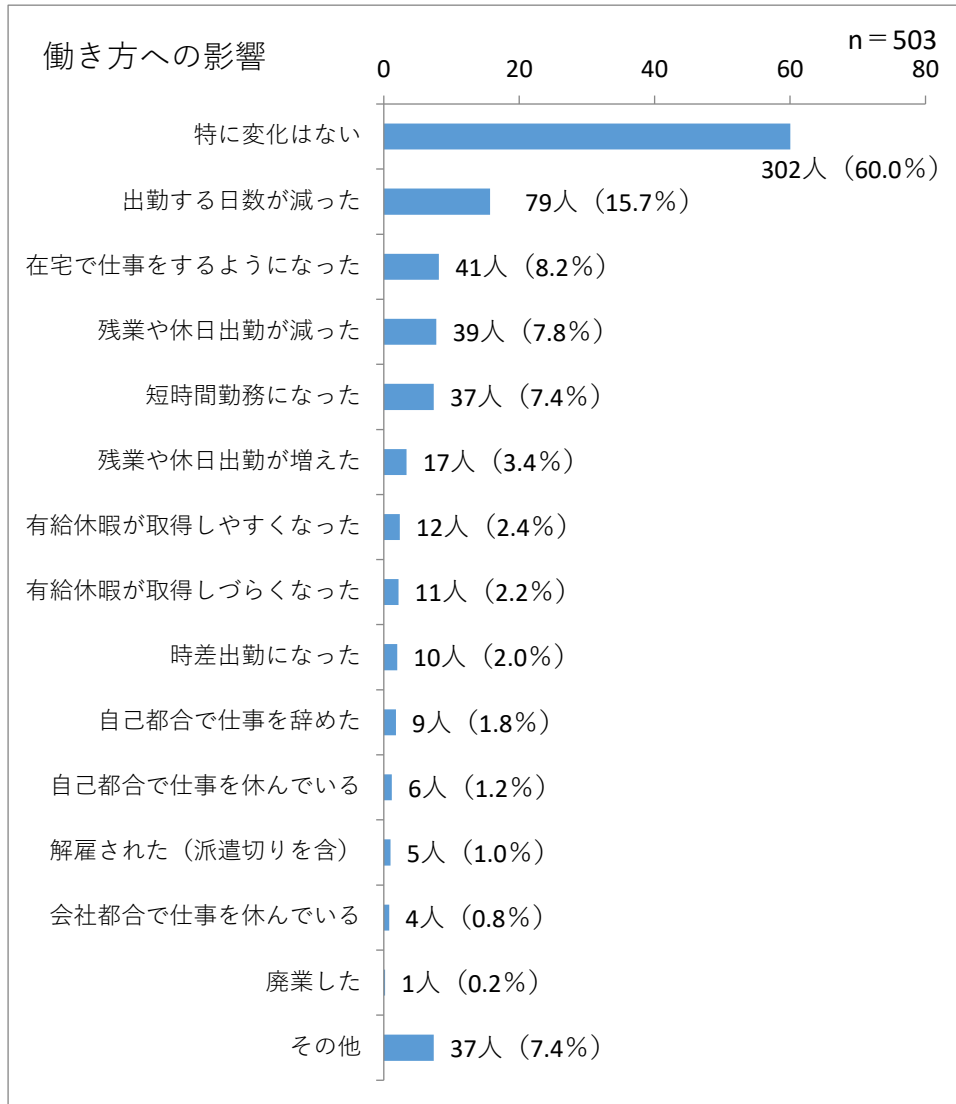
労務・技能職：技能工・調理師・自動車運転手・労務員など

6 アンケート結果

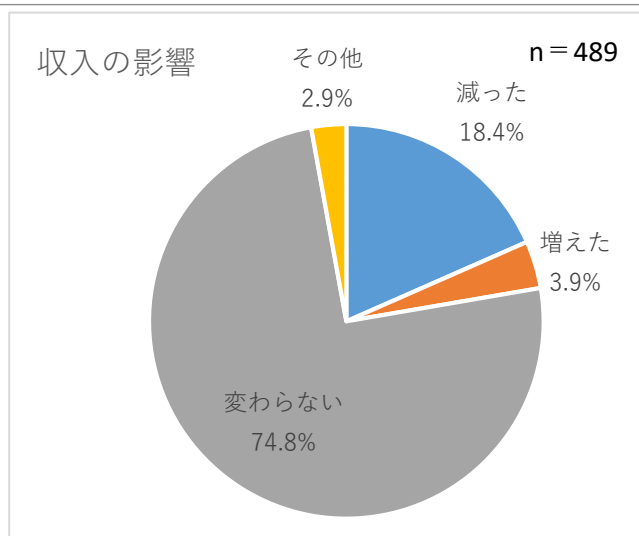
(1) 新型コロナウイルスの影響による働き方及び収入の変化

新型コロナウイルスの世界的蔓延から1年以上が経過し、自粛生活の長期化のためか、働き方について「特に変化はない」との回答が302人(60%)となった。

また、収入の変化についても「変わらない」が366人(74.8%)という結果だった。

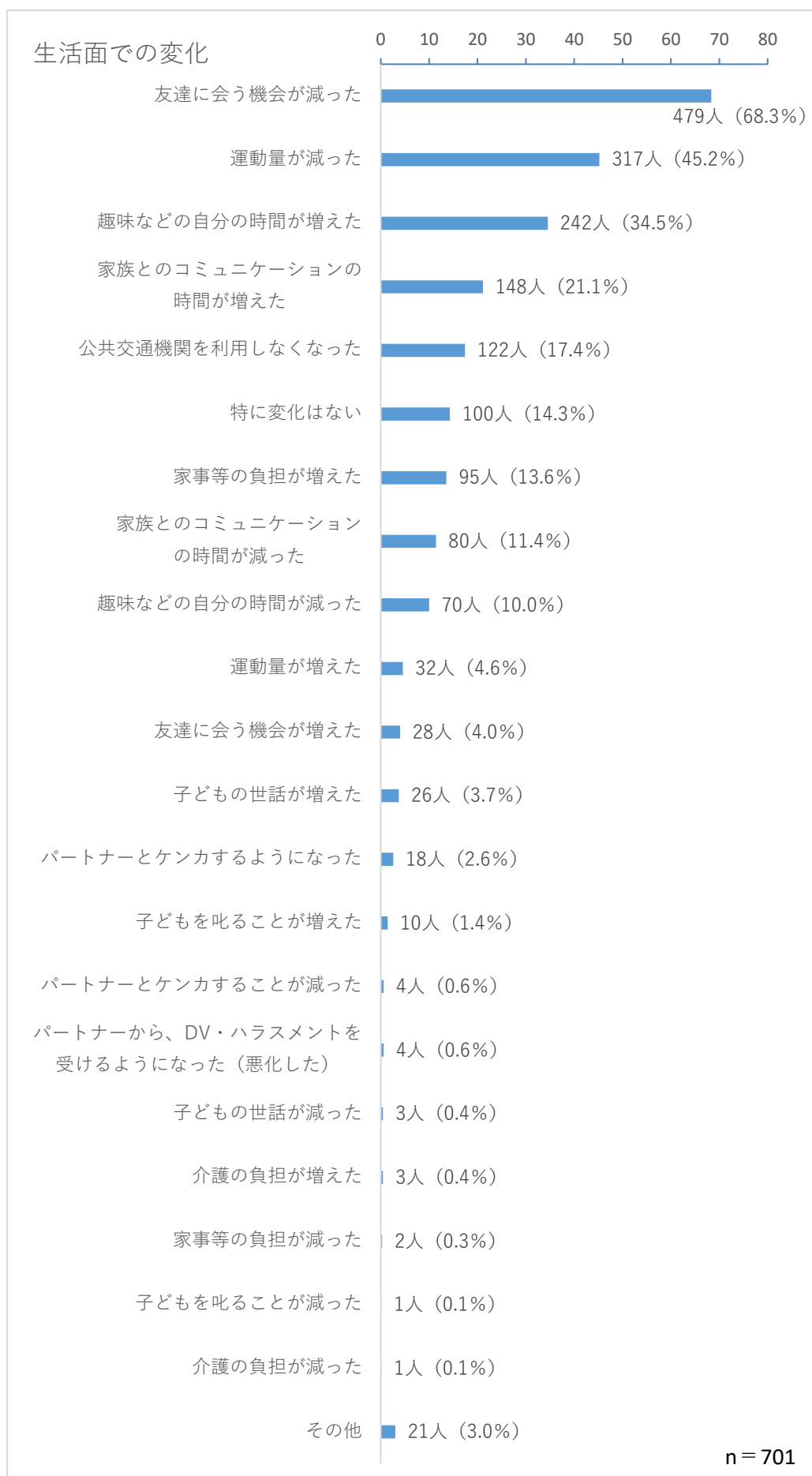


項目	人数
減った	90
増えた	19
変わらない	366
その他	14
合計	489



(2) 新型コロナウイルスの影響による生活面での変化

「友達に会う機会が減った」との回答が479人(68.3%)と最も多く、「運動量が減った」と続いた。マイナス面の変化だけではなく、「趣味などの自分の時間が増えた」や「家族とのコミュニケーションの時間が増えた」などのプラス面の変化もあった。

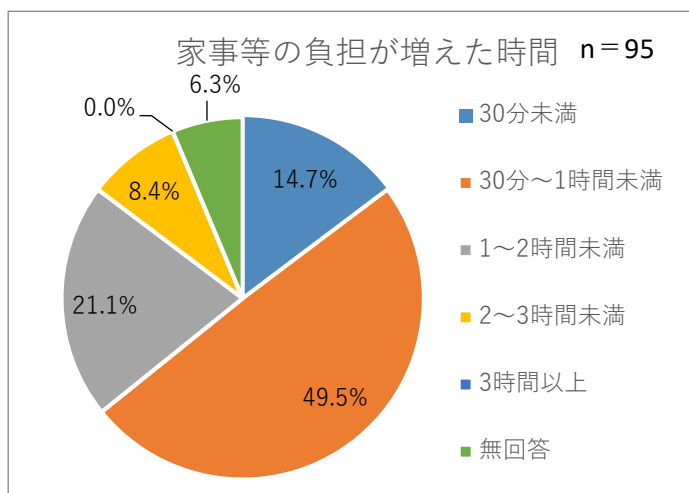


○その他（主なもの）

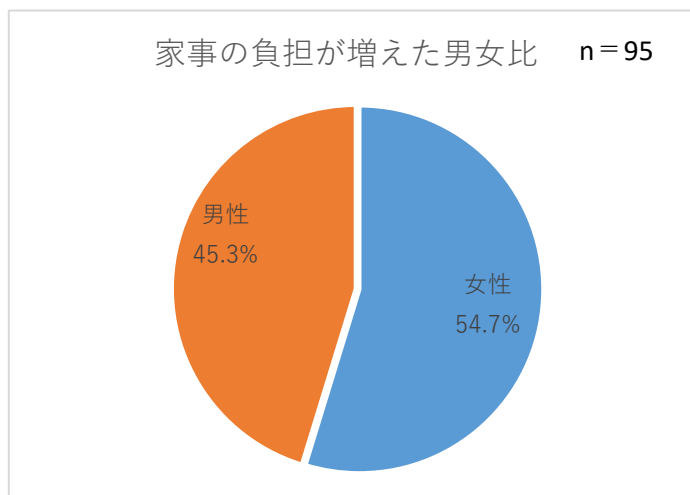
- ・授業がオンライン期間は友だちに会う機会が減ったが、最近は通常通りである。
- ・お金の使い方が変わった。
- ・孫に会いに来るなど、息子娘から拒否されている。
- ・妹がいじめに遭い、不登校になり、母親と妹との喧嘩が耐えなくなったため、別々に暮らすことになった。
- ・研究指導教員が日常的に語る、世間や他教職員への愚痴が多くなった。（学校へ対処相談中）
- ・パートナーの収入減により家計ひっ迫。

また、家事・育児・介護について、それぞれの負担の増減について聞いたところ、家事については、「家事等の負担が増えた」と回答したのは95人（13.6%）。具体的に増えた時間は「30分～1時間未満」と回答した方が47人（49.5%）だった。男女別で比較すると、負担が増えたと回答したのは女性の方が男性よりも9.4%多かった。

項目	人数
30分未満	14
30分～1時間未満	47
1～2時間未満	20
2～3時間未満	8
3時間以上	0
無回答	6
合計	95

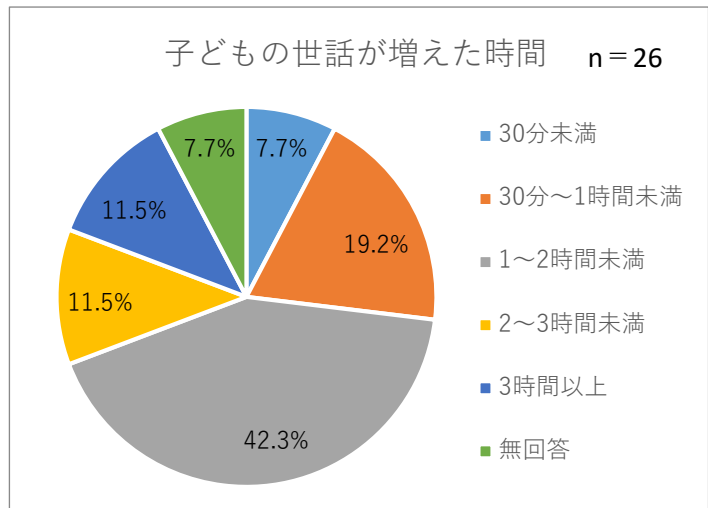


項目	人数
女性	52
男性	43
合計	95

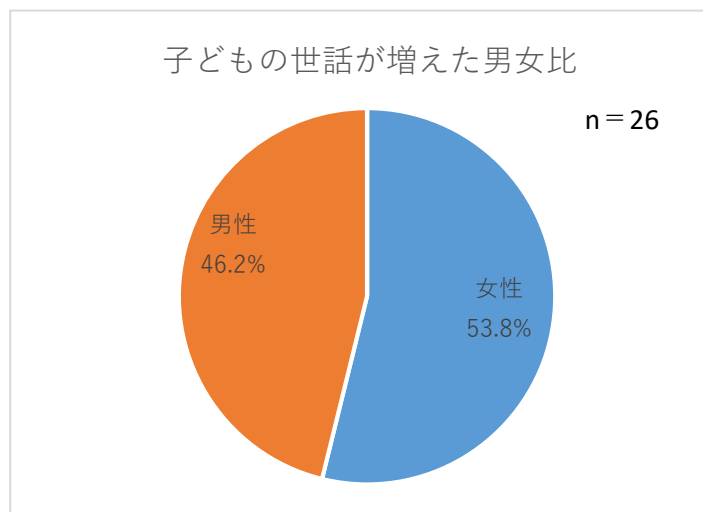


育児については、「子どもの世話が增えた」と回答したのは26人（3.7%）。具体的に増えた時間は「1～2時間未満」と回答した方が最も多かった。男女別で比較すると女性の方が男性よりも7.6%多かった。緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置などにより保育園や学校が休校となったことで、家庭内での感染症対策に係る時間等、日常的に子どもに係る時間が増えたのではないかと推測できる。

項目	人数
30分未満	2
30分～1時間未満	5
1～2時間未満	1
2～3時間未満	3
3時間以上	3
無回答	2
合計	26



項目	人数
女性	14
男性	12
その他	0
無回答	0
合計	26



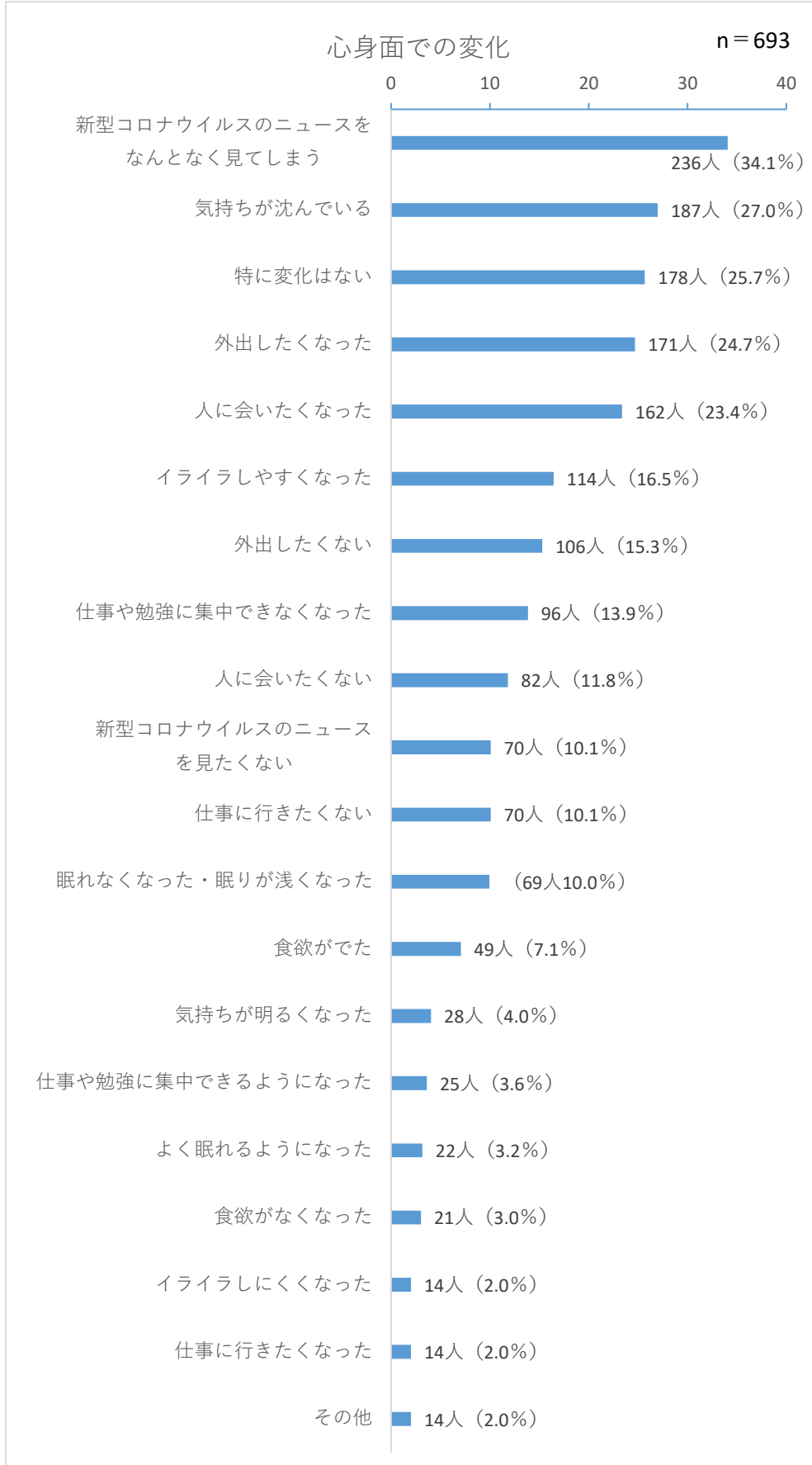
介護については、「介護等の負担が増えた」と回答したのは3人（0.3%）。内訳は「30分～1時間未満」が2人、「1～2時間未満」が1名だった。

今回の調査では、回答者の426人（73.6%）が10～30代だったため、介護をしている方が少なかったのではないかとと思われる。

(3) 新型コロナウイルスの影響による心身の変化

「新型コロナウイルスのニュースをなんとなく見てしまう」との回答が 236 人 (34.1%) 最も多く、「気持ちが沈んでいる」「特に変化はない」と続いた。

また、「外出しなくなった」「人に会いたくなった」などが上位にあがり、外出や人に会うこともためらってしまうような自粛生活、感染症対策が日常となり、大きなストレスを抱えていると考えられる。



○その他（主なもの）

- ・業務の延長で夜に行われていた懇親会という名の飲み会・食事会が開催されなくなったので、うれしい。
- ・自分自身を前年と比較をする機会が増えた。
- ・何でもオンラインですませたくなった。
- ・コロナ禍始まった頃よりは気持ちは明るくなった。
- ・人に会わなくてもよいと考えるようになった。
- ・潔癖症にとって暮らしやすい社会になった。

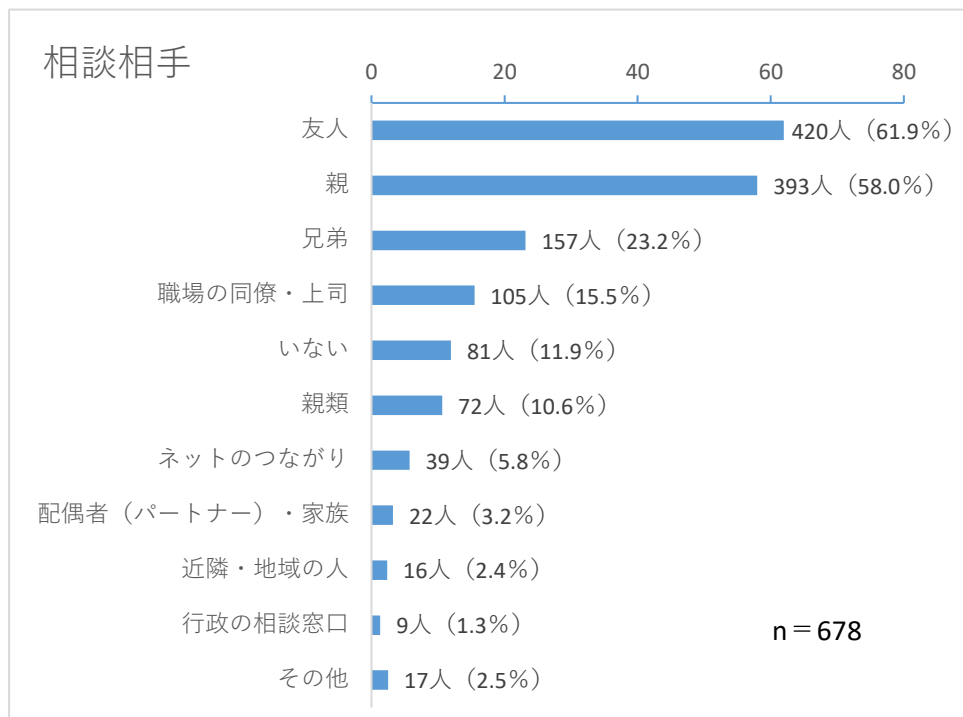
(4) コロナ禍で困りごとや不安に思っていること

「コロナ禍から1年以上が経過し、困っていることや不安に思っていること等がありますか。（自由記述）」に対して、「コロナ禍の不安や不満（感染症対策や自粛生活等）」が最も多く、「収入・経済状況に関すること」「就労・雇用に関すること」と続いた。（主な自由記述はP15に掲載）

- ・コロナ禍の不安や不満（感染症対策や自粛生活等） 62件
- ・収入・経済状況に関すること 27件
- ・就労・雇用に関すること 23件
- ・友人等との交流への影響 21件
- ・家族等に関すること 15件
- ・感染への不安について 14件
- ・学校等に関すること 12件
- ・身体に関すること 5件
- ・その他 18件

※意見の中には複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目にカウントした。

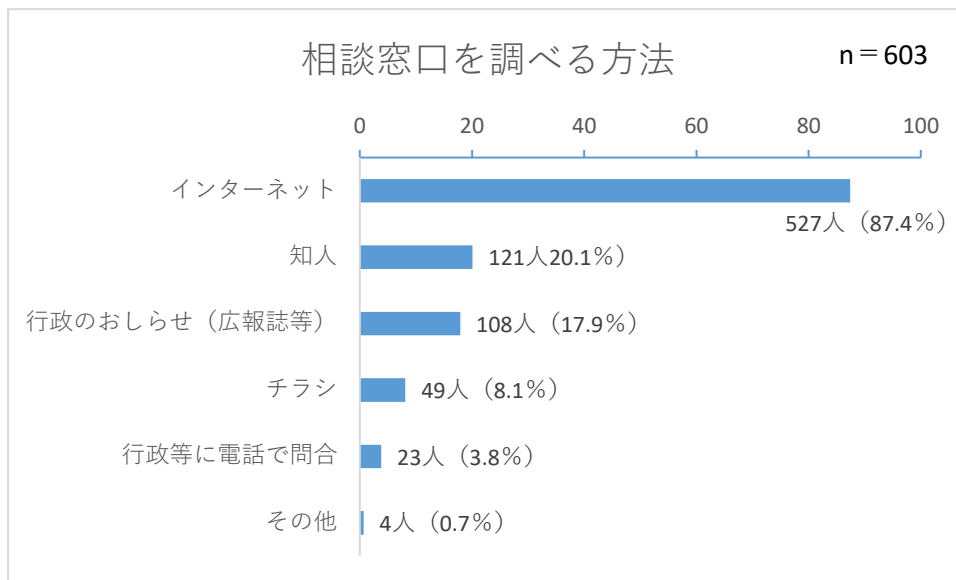
「困っていることや不安に思っていることを相談できる人はいますか。（複数回答可）」に対して、「友人」が最も多く420人（61.9%）、次いで「親」「兄弟」となった。81人（11.9%）の方が「いない」と回答していた。



○その他（主なもの）

- ・ 上部組織 ・ 大学の先生 ・ 恋人 ・ かかりつけ医 ・ 大学の相談室

「困っていることや不安に思っていることを相談する窓口に関する情報をどのように調べますか。（複数回答可）」に対して、「インターネット」が最も多かった。



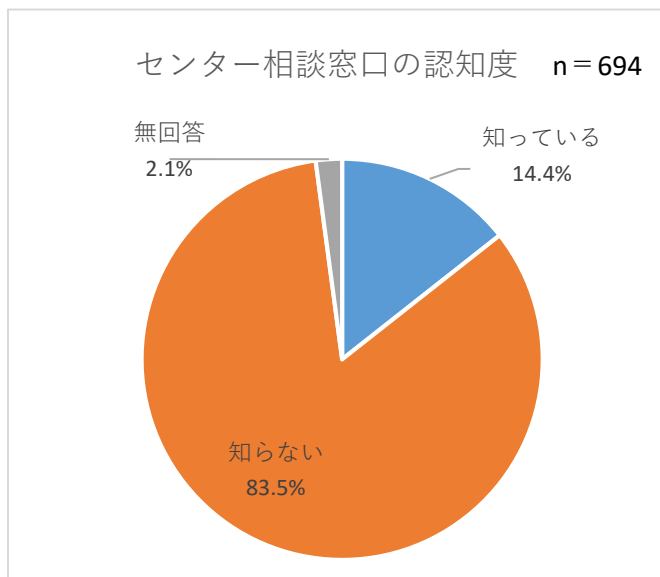
○その他（主なもの）

- ・ 今までの付き合いの延長で調べます ・ パートナー ・ NHK ラジオ (ラジラボ 阿佐ヶ谷 姉妹のおこまりですか?)

(5) センター相談窓口の認知度

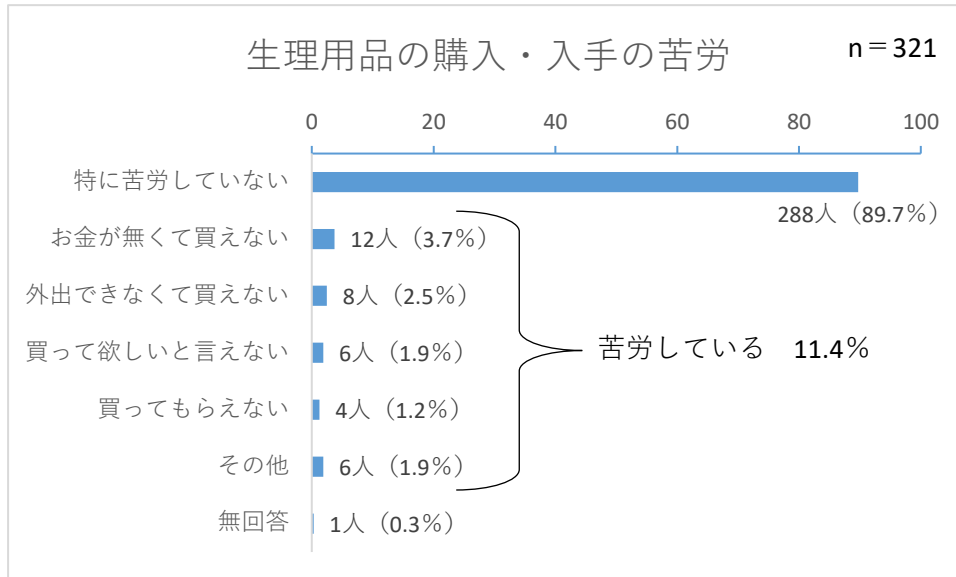
「センターが設置している一般相談や専門相談、チャレンジ支援相談などの相談窓口を知っているか。」に対して、「知らない」と回答した方が 83.5%と多かった。開館以来、上記の窓口を設けているが、今回の調査の回答者には、あまり認知されていないことがわかった。

項目	人数
知っている	102
知らない	592
無回答	15
合計	694



(6) 生理の貧困

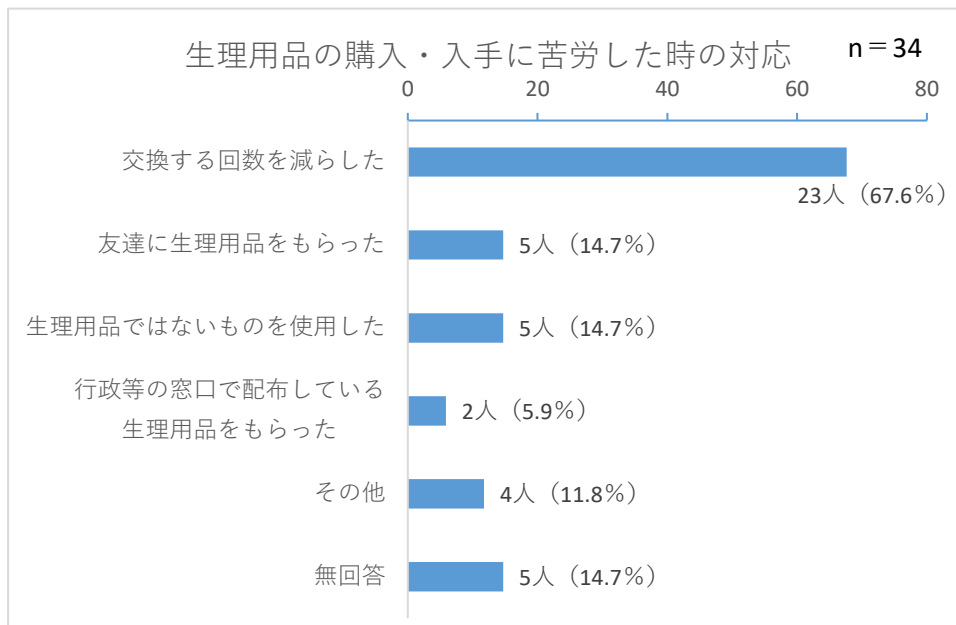
「生理用品を購入・入手することに苦勞している（していた）ことがありますか。（理由も含む）」に対して、「特に苦勞していない」との回答が 288 人（89.7%）、「苦勞した」が 36 人（11.4%）だった。「苦勞した」理由について最も多かったのが「お金が無くて買えない」が 12 人（3.7%）だった。



○その他（主なもの）

- ・購入するのが恥ずかしい。レジ定員が男性の時は買い難い。一生のうち何個買わなければならないんだろうとおもったら費用がもったいなく感じた。
- ・特に苦勞していないが、生活費に余裕がないので福島県男女共生センターから学校へ寄付していただいたものがもらえたり、大学の一部に設置されている OiTr で無料でもらえたりするのは非常にありがたいです。いつもありがとうございます。

さらに、生理用品の購入・入手に苦勞した時の対応について尋ねたところ、「交換する回数を減らした」が最も多く 23 人（67.6%）、「友達に生理用品をもらった」「生理用品ではないものを使用した」が 5 人（14.7%）と続いた。経済的な理由から生理用品を購入できないいわゆる「生理の貧困」は、社会的に認知され、各地の市町村の窓口等で無料配布が行われているが、「行政等の窓口で配布している生理用品をもらった」との回答は 2 人（5.9%）だった。



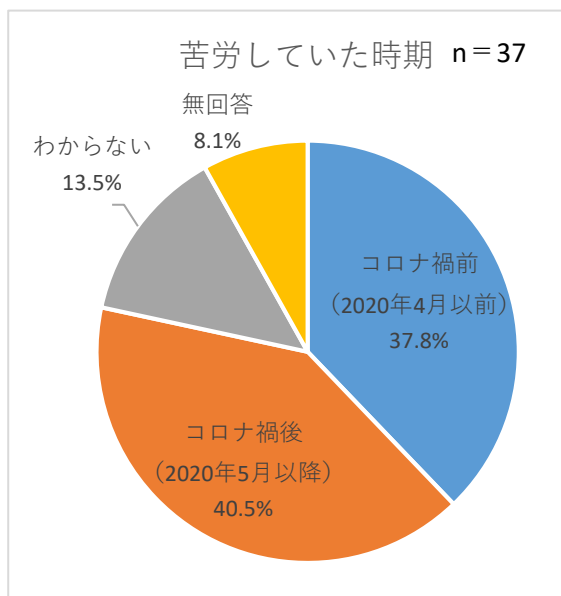
○その他（主なもの）

- ・家族に頼んで買ってもらった。
- ・生理痛の薬が買えないので、痛みを我慢した。
- ・近くのコンビニでほとんど人がいなさそうな時間帯にサッと買いに行った。

なお、生理用品を購入・入手することに苦労している（していた）時期については、「コロナ禍後（2020年5月以降）」との回答が15人（40.5%）「コロナ禍前（2020年4月以前）」との回答が14人（37.8%）だった。

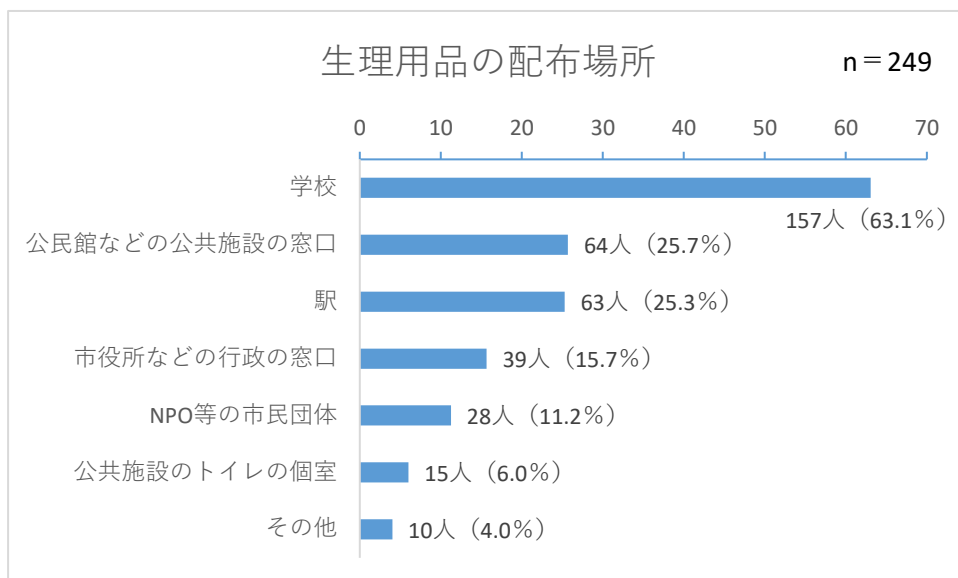
「生理の貧困」の問題は、コロナ禍以前から問題としてあったが「生理」についての悩みを他人に相談しづらい風潮があることを示唆している。

項目	人数
コロナ禍前 (2020年4月以前)	14
コロナ禍後 (2020年5月以降)	15
わからない	5
無回答	3
合計	37



「生理の貧困」が大きく取り上げられ、社会問題として認知され始めたことで、自治体や女性支援団体等で生理用品の無料配布が行われるようになってきた。多くが行政等の窓口での配布を行っているが、「配布されている生理用品を取りに行きやすい場所」について、聞いたところ、最も多かった回答は「学校」だった。

今回の調査では、回答者の60.1%学生であったため、行政等の窓口に出かけることが少ないことが考えられ、日常的な行動範囲に配布場所があると良いようだ。



○その他（主なもの）

- ・取りに行くのは恥ずかしい。郵送が助かる。
- ・わざわざ出かけなければならぬ場合はとりに行きにくい。
- ・女性スタッフが反応してくれる仕切りのある窓口
- ・特定の場所というよりあまり周囲の人に広まらないようにプライバシーが守られるような場所（不特定多数の人に見られないなど）であればありがたいです。

現在、行政の窓口等で生理用品の無料配布が行われているが、「今後、生理用品についてどうなっていくと良いと思いますか。（自由記述）」に対して、「今より安く買えるようになると良い」65件、「今後も行政の窓口で配布し、配布場所を増やしていくと良い」34件、「学校や公共施設等の女子トイレに設置した方が良い（OiTrも含む）」33件となっていた。

ご意見の中には「行政の窓口に行くことが困難だ」「窓口で生理用品をもらうのは恥ずかしい」との意見があった。（主な自由記述は P16 に掲載）

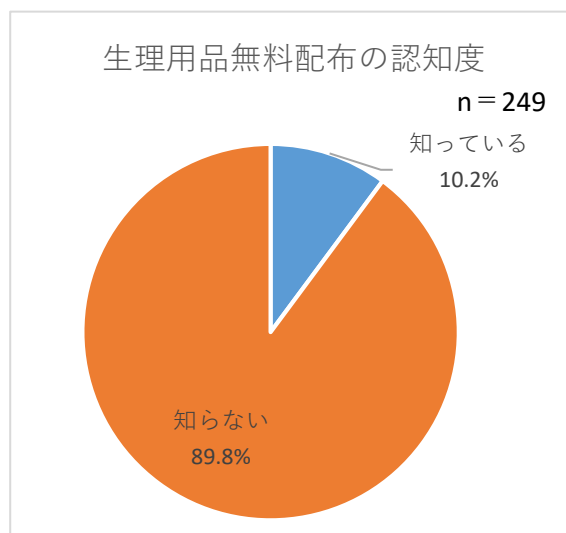
- ・今より安く買えるようになるとよい。 65 件
- ・今後も行政の窓口で配布し、配布場所を増やしていくとよい。 34 件
- ・学校や公共施設等の女子トイレに設置した方がよい。（OiTr も含む） 33 件
- ・学校や駅等の行政の窓口以外で配布した方がよい。 18 件
- ・生理用品の配布等の情報をもっと広報した方がよい。 12 件
- ・本当に困っている人に届けるシステムがあるとよい。 6 件
- ・女性に支援金やクーポン等を支給するような仕組みがあるとよい。 5 件
- ・その他 21 件

※意見の中には複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目にカウントした。

当センターでは、令和3年6月から実施している「コロナ禍における女性のつながりサポート事業」において、センター（二本松）や会津・郡山・いわきの各相談コーナー、福島県青少年会館で生理用品の無料配布を行っているが、無料配布を行っていることを知っていた人は、72人（10.2%）と低かった。

当センターのホームページや Facebook に掲載するとともに、チラシを関係各所に送付し、周知に努めているが、特に学生（10～20代）への広報についてはさらなる検討が必要ではないかと思われる。

項目	人数
知っている	72
知らない	637
無回答	0
合計	709



「ご意見等ございましたら、ご記入ください。(自由記述)」に対して、「生理の貧困」に関する意見が最も多く 17 件だった。今回の調査で当センターの事業や生理用品の無料配布について知ったという意見もあり、広報の難しさを改めて痛感した。(主な自由記述は P18 に掲載)

- ・生理の貧困に関すること 17 件
- ・コロナに関すること 8 件
- ・アンケートに関すること 5 件
- ・センターの事業に関すること 4 件
- ・その他 15 件

※意見の中には複数の内容が含まれているものは、それぞれの項目にカウントした。

(7) 自由記述 (主なもの)

6 (4) コロナ禍で困りごとや不安に思っていること

(Q12 コロナ禍から1年以上が経過し、困っていることや不安に思っていること等がありますか。)

○「感染への不安」について

- ・ワクチンも2回打ったし県内のコロナ感染者も減っては来ているが、いつまた増えるかが不安。
- ・感染拡大の不安・自身や家族、身近な人が感染したときの不安、周りが過剰なほどに気になるようになったし、咳をする際など周りの目も同様に過剰に気になるようになった、少しでも不調を感じると一気に不安になる。

○「感染症対策や自粛生活等コロナ禍の不安や不満」について

- ・現状は落ち着いた状況が続いているので、これからまた環境が変化することでまた生活体系が変化したり、以前の状態に急激に戻そうとして心労が増えるのが不安です。
- ・日本は同調圧力が大きいと個人的に感じているので、遊びに行きたくても周りの目が気になって遊びに行けないのが悩み事になっている。
- ・友達と気軽に遊べないこと、感染予防対策用の透明なシートのせいで声が聞こえにくく、会話がスムーズにできないこと。
- ・行動一つ一つに周りの人にどう思われるのだろうかなど気にしてしまう。
- ・このような閉塞した日常に終わりはあるのだろうかという不安が大きい。また、不安や恐怖に対する各人の温度差が大きいので、話をするときにも言葉の使い方に慎重になる。

○「就労・雇用に関すること」について

- ・新生活の費用や卒業旅行のお金が足りるか不安、仕事はじめてお給料貰えるまで生きていけるか不安。
- ・職務上、コロナ関連業務(対策だけでなく、支援業務も)が激増している。今後も継続必要だが自分自身の身が持たないと不安がある。
- ・コロナ禍でアルバイトを始めるタイミングがなく、未経験なままに始めにくいこと。
- ・コロナ禍が収束する保証がないので、それが心配。また、収束後、オンライン形式の学業・仕事が全面撤廃されないかが心配。場合によってはオンライン形式の方が良い場合もあるため。特に就活では交通費がかかり、移動のための拘束時間が長い場合があるので、オンライン形式があると助かる。

○「収入・経済状況に関すること」について

- ・金銭的に余裕がなく、生活が苦しい。学生への金銭的・食事的な支援が欲しい。
- ・金銭面の不安、いつまで続くのかという不満。
- ・アルバイト収入の減少と、自己が感染した場合への不安

○「家族等に関すること」について

- ・離れて暮らしている家族・両親・親戚に体調不良などが起こった場合どう対応するか不安。実際に起こったが見舞いや世話にいけない。それは幸いに私が行かなくてもなんとかかなる方だったが、そうでない場合はどうするか不安がある。
- ・遠くの親戚や友達に会えない。近くでも気軽にママ友や子供連れでの交流が出来ない。
- ・家族がワクチン否定派なのでこっそり2回接種し黙って副反応に耐えてのたうちまわった。

○「学校等に関すること」について

- ・友達に会いたいが不安が残る、学習的側面のあるイベントやボランティアなどに参加しにくくなったため、このままでいいのか不安。
 - ・大学のサークル活動の制限が増え、手続きも煩雑になったことで以前までは不要であった仕事が増えて困っている。
 - ・子どもが学校に不安の為に行けなくなった。
- 「身体に関すること」について
- ・入院・手術を早期に受けなければならない状態であるが、仕事の都合と病院の都合がつかず肉体的・精神的に疲弊している。
 - ・マスクによる皮膚のトラブル。
- 「友人等との交流に関する影響」について
- ・友達と遠出することを予定していたが、毎回コロナで行くことを諦めている。このような状況が続いているため、いつになったら安心して遠出できるのか不安である。
 - ・高学年になり遠出や旅行などをしたいが、この状況でできないためストレスが溜まっている。
 - ・他の大学の友達が、遠隔授業により友達ができにくく、加えて一人暮らしで人と会う時間が極端に少ないという話を聞いて心配に思っている。
- 「その他」について
- ・友人・知人の仕事がうまくいなくなったり、収入が減り体調も思わしくない方がいてとても心配。
 - ・子供が人との関わりを学べる場が学校しかないのも、大人になった時の影響を考えると恐いです。
 - ・職場の飲み会の企画・出席が不要となり楽に感じる。再開することになった場合、不安。
 - ・ワクチン接種を迅速にやれたのは、素晴らしいと評価している。しかし、在宅でテレビをつけてもコロナコロナばかりで不安を撒き散らす報道に疑問です。国防に関しての情報は、数分で、政治家の悪口、コロナの事ばかりで、本当に腹が立っています。偏向報道に対して何とか出来ないものか。これでは、日本が弱体化する。国そのものの在り方を強く不安に思います。

6 (6) 生理の貧困

(Q20 現在、行政の窓口等で生理用品の無料配布が行われていますが、今後、生理用品について、どうなっていくと良いと思いますか。(自由記述)

- 「今より安く買えるようになるとよい」について
- ・値段自体を安くして欲しい。また、無料配布を増やして欲しい。
 - ・トイレットペーパーのようにトイレに常備されているといいのではないかと思います。また、生理用品は軽減税率になるべきだと思います。
 - ・配給だけでは足りないため、今より安くなってほしいです。
 - ・今より安く買いたい。男性には必要のないものなのに、女性だけ毎月税率 10%払っていることがおかしい。
 - ・無料配布の恩恵が受けられるのは近くに住んでいる人だけなので、生理用品全般の値段がもう少し安くなれば買いやすくなると思う。都市部以外の場所で生理用品に困っている人には届いていないと思う。
- 「今後も行政の窓口で配布し、配布場所を増やしていくとよい」について
- ・今後も行政の窓口で無料配布したほうが良い。配布する場所を展開した方が良い。
 - ・無料配布する場を増やして、もっと情報が広く伝わるようにしたほうが良い。

- ・生理用品を買い揃えるだけでも費用がかなりかかるので、無料でもらえる機会が増えたり、安く販売してもらえると嬉しいです。
 - ・買えない人のために、どこかで無料配布してほしい。また、そもそも生活になくてはならないものなので、もっと安く買えた方が良い。
 - ・無料配布は是非続いてほしい。特に、自身を買うものに対して親の影響力が強いと考えられる小中学生がよく訪れる場所(学校、学童、文房具店など)で配布できたら良いと思う。
- 「学校や公共施設等の女子トイレに設置した方がよい (OiTr も含む)」について
- ・小・中学校は義務教育なので、女子トイレに設置しても良いかと思う。
 - ・学校や役所など公共の施設のトイレに、生理用品が置かれるようになると良いと思う。徐々にスーパーや行楽施設など、至るところのトイレで配布が行われるようになると良いと思う。
 - ・すべての公共施設のトイレに無料配布していればよいと思う。生涯使わないと困るものにお金や税金をかけるのはおかしいと感じる。大学や塾などにあると嬉しい。
 - ・トイレ(個室)の中など、生理用品を受け取っている場面を周りの人に見られにくい場所で配布した方が良いと思う。そうすることで、人の目を気にせずもらうことができ、生理用品をもらうハードルが下がると思う。
 - ・急に欲しくなることがあるので、トイレに設置してあると助かる。
- 「学校や駅等の行政の窓口以外で配布した方がよい」について
- ・行政の窓口で配布していることをもっと知らせた方が良いと思う。また、行政の窓口までわざわざ取りにいける人は生活が切羽詰まっていなくて、生理用品が買えないほど切羽詰まっている人のことを思うと、学校や会社、駅などで配布があると嬉しい。
 - ・学校で無料配布していたので大変助かった。続けてほしいです。
 - ・教育機関に常備し、第三者の仲介なしに手に入るようにする。もらいに行く抵抗は相当のものがあります。特に、敷居の高い行政の窓口に出向く若者はごくごく僅かのはずです。
- 「生理用品の配布等の情報をもっと広報した方がよい」について
- ・今後も行政の窓口で無料配布した方がよい。かつ、そのことについて、小学校や中学校などの若い世代に授業の中で伝える工夫がほしい。
 - ・知らなかったので、きちんと広めてほしい。いつでも生理用品が不足したり困らないように、行きやすい、受け取りやすい環境をつくってほしい。なかなか買えない人が困らないように今後も広めてほしい。
 - ・まずはそのこと自体知らなかったもので、周知が徹底されていくことも含めて、困ったときに気軽に頼れる場所があることがわかると良い。無料配布に関しては継続していただけたら困窮している人、必要と言えない若い子たちにとっても良いかと思うが、そういった子たちが利用しやすい環境を作って継続して行ってほしい。
- 「本当に困っている人に届けるシステムがあるとよい」について
- ・生活保護家庭に、行政が積極的に啓蒙して、届けるとかのサービスをしてもらいたい。
 - ・無料配布だと行政への財政的な負担が大きいと思うので、今より安い価格で買えるようになって欲しい。災害時の支援物資や生活保護など困っている人には無料配布して欲しい
- 「女性に支援金やクーポン等を支給するような仕組みがあるとよい」について
- ・無料配布よりも女性であることを理由にした補助金を本人の口座に出して、買ってもらった方が良いのでは？

- ・女性にとっては水と同じく生活必需品なので、クーポン券の配布などで全員に一年分を配布しても良いと思う。無料配布しているを見かけるが、自分だったら人目が気になって受け取りを躊躇するだろうと感じる。一番安価な商品を購入できるクーポン券を配布し、グレードを上げたければ差額を自己負担するような形の方が利用しやすいと思う。

○「その他」について

- ・「生理は恥ずかしいこと」というマイナスイメージの払拭が進むといい。
- ・もらいに行くのを恥ずかしいと思わなくていいようになるといい。
- ・そこまで貧困している根本的解決を望みます。本末転倒な処置では、ダメ。

ご意見等

(Q22 ご意見等ございましたら、ご記入ください。(自由記述))

○「コロナに関すること」について

- ・コロナ感染予防対策をしても不安です。
- ・商業施設等でのマスク着用がいつ任意になるか(願望)
- ・各自が科学的に判断できる情報が発信されていない。また、多くの人が、論理的思考をできていない。これらのことから、デマなどの誤った情報が流布され、誤った施策が行われかねない状況にあることが不安である。

○「生理の貧困に関すること」について

- ・生理用品が恥ずかしいと思うこと自体が間違っている。男女ともに、意識の改革が必要である。
- ・生理用品はパートナーとよく話をするが、無料配布よりもその生理期間をカバーできるレベルの補助金や政府からのお金の支出があった方が、男女平等に近づくと思う。

特に東北では配布場所に行くだけで半日潰れると言うことも有り、東京であればまだしもそういった場所で配布しても負担は重くなるだけなのは

また、まだ生理に対しての偏見はあるように思い、当人がその偏見を受け止めながらそういったものを受け取りに行くのも限界がありそうである。

ピル等も併せてそういった問題は非常に重要なので、適切な塩梅でどうにかして欲しい(パートナーは生理で一週間動けない期間があり、それを防ぐためのピルも3ヶ月で15,000円(受け取りに行くのも一苦勞で、行くのに付き合っているが1日潰れる。)と結構な高額である。

特に経済的な基盤がない状況でそういった金銭的負担や移動負担は「やってられない」と感じる部分も多いだろう。そもそも行くのもかなり不安がある様子だった(最初に行くのに半年くらい迷った期間がありました。)

公共機関がどうすることもできないとは思いますが、こういった課題があることは認識して欲しいです。

スマルナ等のアプリもありますが、ファーストアプローチで見ず知らずの人間にプライベートな部分を話さなくてはいけないというのは非常にハードルが高いです。家族(父親でさえ)話すことは難しいと言うのに。(通販で買う前に医者に行くことを勧められる。また、価格も保険適用外なので3倍くらいの値段。)女性の産婦人科医を探すのも大変でした。

自分は男性ですので、関係はありませんが、恋人の課題は自分の課題でもあると言う認識があります。ぜひ、もっと進んだ取り組みをして欲しいと思う次第です。

性的偏見でこういった取り組みを阻害する老害には席をあけてもらってください。マジで。

・大人は働いて生理用品を買えたり、窓口に行く手段を持っていますが、学生はもっと弱い存在です。学校へ配置することで、学生を手厚く支援していただきたいです。

・生理用品など、一部の人の利益のために税金を使うべきでない。

○「アンケートに関すること」について

・アンケートの表現に統一感を持たせるといいと思いました。具体的にはこの自由記入の設問のように、【(質問の対象者)に伺います。】といった表現が生理用品や労働者に関する質問でも適用されていれば、アンケートに答える側からするとより理解しやすかったように思いました。

・アンケート結果の公表について情報提供すべきでは？ 公的機関として、アンケート調査を依頼している以上、市民に情報公開して社会還元する義務があると思います。

○「センター事業に関すること」について

・コロナ禍だからではなく通年で女性の家庭や仕事の悩みをどんどん吸い上げて欲しいし、そういう機関であることをもっとアピールしたらいいと思います。生理用品の件、本当に知らなかった。

・アンケートに答えながら無知だったなと痛感しました。知るきっかけにも繋がり、感謝しています名前しか存じ上げなかったのも、あまり自分の生活と貴団体の活動が結びつきませんでした。実は私たちの身近にある存在なんだということがわかってよかったです。今後も気にして見てみたいと思います。

○「その他」について

・回答者向けの性別を「性自認」と書き換えたのは先進的である。しかし、女性を自認する存在の中で圧倒的に多数であろう身体女性が直面する問題を不可視化するようなことはしないでほしいと考えている。これを書いたら私自身が差別者と謗られるかもしれないが、アンケート調査等は身体的な性別で良いと思う。性別の定義をどうするかはとても重要な問題だが、現在不合理な状況に陥ってる女性は大抵は女だ。痴漢に合うのも入試で減点されるのも身体女性で、望まない妊娠で子どもを墮ろせず適切な支援に繋がれず赤子を死なせたら捕まるのは身体女性だ。書ききれないくらいに身体的な女性が置かれてる問題はたくさんある。セクシャルマイノリティの権利は重要なものだが、自認を用いることによって「女性」の定義から、身体が女である故に困ってる人を不可視化するようなことはやめてほしい。

今回、生理の貧困に関する内容を質問事項に入れてくれたのはとても良かったと思う。女の体を持ってしまった以上必ず使用する生理用品を支援するのは良いことだ。今後も是非続けて頂きたい。

・困っていることに困っているという自覚のない人にも伝わる広報をしてほしいです。

・18歳未満だけが子供ではなく、大学生や専門学生もアルバイトができなかったり、就職先がなかったり困っています。18歳未満の子供がいる家庭だけがお金がかかるわけではないことを理解して欲しいと思います。

・国はコロナ禍でバラマキをしたことで、コロナが収束したら増税すると考える。収入は減収していて、子どもの教育費に負担がかかるうえに、増税されたら正社員でも生活ができなくなる。

パートや非正規社員はさらに負担が増え大変な社会になると考える。国民に負担をかけるのではなく、政治家・議員や行政の職員が身を切る施策と企業が給与を増やしていかないと、国民の生活は一向に良くならないと考える。

7 アンケートの項目

新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響に関する調査

下記の質問に対し、該当するものにチェック☑してください。

1 年代

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

2 性自認

男性 女性 その他

3 お住まいの地域

県北 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき
その他()

4 同居家族(複数回答可)

なし(一人暮らし) パートナー・配偶者 子ども 自分の親
パートナー・配偶者の親 その他()

5 就業状況

正社員 契約・派遣社員・非常勤職員 パート・アルバイト 自営・フリーランス
専業主婦(夫) 学生 無職 その他()

6 (働いている方に)業種は何ですか?(学生アルバイト等も含む)

農・林・漁業 商・工・サービス業(小売業・飲食店・理髪店など) 自由業(開業医・弁護士・芸術家・茶華道の師範など) 専門技術者(勤務医・看護師・研究員・教員・栄養士・保育士・技術者など)
事務職(一般事務・司書など) 労務・技能職(技能工・調理師・自動車運転手・労務員など) その他(具体的に:)

7 (働いている方に)新型コロナウイルスの影響で、あなたの働き方にどのような変化がありましたか。(学生アルバイト等も含む)(複数回答可)

在宅で仕事をするようになった 出勤する日数が減った 時差出勤になった
短時間勤務になった 残業や休日出勤が増えた 残業や休日出勤が減った
有給休暇が取得しやすくなった 有給休暇が取得しづらくなった 会社都合で仕事を休んでいる
自己都合で仕事を休んでいる 自己都合で仕事を辞めた 解雇された(派遣切りを含む) 廃業した / その他() 特に変化はない

8 (働いている方に)あなたの収入にどんな影響がありましたか。(学生アルバイト等も含む)

減った 増えた 変わらない その他()

9 コロナ禍から1年以上が経過し、あなたの生活面でどのような変化がありましたか。(複数回答可)

友達に会う機会が増えた 友達に会う機会が減った 趣味などの自分の時間が増えた
趣味などの自分の時間が減った 家族とのコミュニケーションの時間が増えた 家族とのコミュニケーションの時間が減った 家事等の負担が増えた 家事等の負担が減った
子どもの世が増えた 子どもの世が減った 子どもを叱ることが増えた
子どもを叱ることが減った 介護の負担が増えた 介護の負担が減った 運動量が減った
運動量が増えた パートナーとケンカするようになった パートナーとケンカすることが減った
公共交通機関を利用しなくなった パートナーから、DV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した) その他() 特に変化はない

10 9の質問で「家事等の負担が増えた(減った)」「子どもの世が増えた(減った)」「介護の負担が増えた(減った)」を選んだ方に伺います。コロナ前とコロナ後で具体的にかかる時間に変化はありましたか?

(1)家事 (増えた 減った 変わらない)

具体的にどれくらいですか?

(30分未満 30分~1時間未満 1~2時間未満 2~3時間未満 3時間以上)

(2)育児 (増えた 減った 変わらない)

具体的にどれくらいですか?

(30分未満 30分~1時間未満 1~2時間未満 2~3時間未満 3時間以上)

(3)介護 (増えた 減った 変わらない)

具体的にどれくらいですか?

(30分未満 30分~1時間未満 1~2時間未満 2~3時間未満 3時間以上)

11 コロナ禍から1年以上が経過し、あなたの心身にどのような変化がありましたか。(複数回答可)

気持ちが沈んでいる 気持ちが明るくなった イライラしやすくなった イライラしにくくなった
新型コロナウイルスのニュースを見たくない 新型コロナウイルスのニュースをなんとなく見てしまう
眠れなくなった・眠りが浅くなった ぐっすり眠れるようになった 仕事や勉強に集中できなくなった 仕事や勉強に集中できるようになった
仕事に行きたくない 仕事に行きたくなくなった 外出したくない 外出したくなった 人に会いたくない 人に会いたくなくなった 食欲がなくなった 食欲がでた
その他()
特に変化はない

12 コロナ禍から1年以上が経過し、困っていることや不安に思っていること等がありますか。(自由記述)

- 13 困っていることや不安に思っていることを相談できる人はいますか。(複数回答可)
- 親 兄弟 親類 友人 近隣・地域の人 職場の同僚・上司
ネットのつながり 行政の相談窓口 その他()
いない
- 14 困ったことや不安に思っていることを相談する窓口に関する情報をどのように調べますか。
(複数回答可)
- チラシ 行政のお知らせ(広報誌等) インターネット 知人 行政等に電話で問合せ
その他()
- 15 福島県男女共生センターでは、一般相談や専門相談、チャレンジ支援相談など、様々な悩みを相談できる窓口がありますが、知っていますか。
- 知っている 知らない

【 生理についてお伺いします。該当する方のみお答えください。 】

- 16 生理用品を購入・入手することに苦勞している(していた)ことがありますか。その理由は何ですか。
- お金が無くて買えない 外出できなくて買えない 買ってもらえない 買って欲しいと言えない
その他() 特に苦勞していない
- 17 16で「苦勞している(していた)」ことがある方に伺います。
生理用品を購入・入手することに苦勞した時、どうしましたか。
- 友達に生理用品をもらった 行政等の窓口で配布している生理用品をもらった 交換する回数を減らした 生理用品ではないものを使用した その他()
- 18 生理用品を購入・入手することに苦勞している(していた)のは、いつですか。
- コロナ過前から(2020年4月以前) コロナ過になってから(2020年5月以降)
わからない
- 19 配布されている生理用品を取りに行きやすい場所はどこですか。(複数回答可)
- 市役所などの行政の窓口 公民館などの公共施設の窓口 NPO等の市民団体 学校
駅 その他()
- 20 現在、行政の窓口等で生理用品の無料配布が行われていますが、今後、生理用品について、どうなっていると良いと思いますか。(自由記述)
- (例:今後も行政の窓口で無料配布した方がよい。/ 今より安く買えるようになった方がよい。)

21 福島県男女共生センターでは、当センター窓口や会津・郡山・いわきの相談コーナー・福島県青少年会館で生理用品を無料で配布していますが、知っていますか。

知っている 知らない

【 すべての方に伺います。 】

22 ご意見等ございましたらご記入ください。(自由記述)

調査にご協力いただき、まことにありがとうございました。